

1 「淡路人形浄瑠璃芝居」発展の足どり

◆ 衰退への波風を乗り越えて

淡路人形浄瑠璃芝居（以下、淡路人形芝居という）は、西宮恵比寿神社の恵比寿舞や大阪四天王寺の舞楽等を源流として、ここ淡路の地に誕生し、今日まで約 500 年間、ふるさと淡路の豊かな土の香の中ではぐくまれ、この島に生きる人々の息吹や情熱、熱い涙の結晶がこもる伝統芸能であります。江戸中期には 44 座、座員も 900 人を超えるほどの盛況でしたが、幾多の時代の荒波にもろにかぶり、衰退の憂き目にさらされて、戦後にはわずか 4 座になりました。現在は「淡路人形座」ただ 1 座になっておりますが、先人たちが築き上げた尊い文化遺産を愛護し、これを後世に向けて継承しようとする関係者の限りない情熱と努力のもと、見事に立ち直り、今日を迎えております。

◆ 近代化への整備

この間、昭和 52 年には「財団法人淡路人形協会」が設立され、初代森勝理事長の卓越せる識見・手腕の下、一躍活性化の途が開かれる事になりました。動 54 年には、この伝統芸能が国の重要無形民族文化財として指定を受け、世の脚光を浴びることとなりました。昭和 60 年、「くにうみの祭典」の一会場として、兵庫県により建設された大鳴門橋記念館の中に「淡路人形浄瑠璃館」が整備され、念願の常設公演をつうじて、この館へ訪れる多くの愛好者から「兵庫県に淡路人形芝居あり」と、この芸能の健在ぶりや、着実な発展の姿が賞賛の的となりました。

その陰には、若手座員の身分の保障とか、地元小・中学校や子供会、高等学校、青年研究会等による系統的な後継者育成システムの定着など、淡路人形協会ははじめ地元関係者の、運営の近代化に向けた努力もあり、それらは他に例を見ない取り組みとして高い評価を得てきております。

◆ めざましい海外公演

忙しい公演の合間を縫って、海外公演活動もめざしく、その足跡は昭和 33 年のソ連公演を端緒として、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア等に広がり、前後 12 階、18 カ国に及ぶ親善公演を通じて、淡路人形芝居の名声を世界にとどろかせ、国際交流促進にも大きな役割を果たして来ております。

◆ 人形芝居サミット・フェスティバルに寄せる熱い期待

近年、年ごとに淡路人形芝居に対する関心や理解が高まるにつれ、この実績を踏まえて、平成 3 年から毎年秋に「全国人形芝居サミット・フェスティバル」を開催、人形芝居に携わる全国の同志がこの地に相集って「伝統芸能復興」への熱い思いを交錯させており、わけても淡路人形芝居にかかわる地域ぐるみのユニークな取組態勢には感嘆と羨望の声が集出し、「人形発祥地淡路」に寄せる各地からの期待と評価はいやが上にも増してきております。平成 8 年度には第 6 回目として、「人形芝居と観光」をテーマにしたイベントを開催、今後の両者の相乗的な発展作について意見交換しました。また、現在では見ることの少なくなった「野掛け芝居」を十数年振りに復活させたのも大きな成果となり、そのことは東京でも大きな話題となりました。

◆ 阪神・淡路大震災後の観客の激減

しかしながら、平成 7 年 1 月、突如として襲った阪神・淡路大震災には、当淡路地方にも多大の人的物的被害がもたらされました。淡路人形浄瑠璃館のある南淡路地方は、震源地から 50 キロほど離れており、直接の被害は軽微ではありましたが、震災を境として淡路地方への観光客の入り込みが激減し、人形座を支える観客収入が大きく影響されることとなりました。昨年 9 月の阪神高速道路の復旧に期待をかけたものの、観客数は大きな回復に至らず、現在もなお、その後遺症に苦しんでいる状態です。

2 明石海峡大橋開通とともに、未曾有の変革期を迎える淡路島

こうした中で、淡路島民の永年の悲願として、待望久しい明石海峡大橋の架橋工事が着々と進捗し、いよいよ来週には供用化医師、これに併せて神戸淡路鳴門自動車道も全線開通します。さらには、架橋完成を記念する多彩な記念事業も計画が進み、平成 12 年に開催される国際園芸・造園博「ジャパンフローラ 2000」、そして国際公園都市構想のメイン施設である「淡路夢舞台」も本格着工されました。

相次ぐ大プロジェクトの実現や記念事業開催を通じて、私たちの淡路島は有史以来の大変革期を迎えることになり、大阪湾バイエリアの中でも、もっとも詩情に富む夢の島、国際的なリゾートの島として、大きな役割を担いつつ世界のひのき舞台にデビューし、21 世紀に向けて、自然と産業と文化が調和したところ豊かな発展を遂げることが期待されるようになっております。

◆ 明石海峡大橋開通を淡路人形芝居の飛躍発展の好機に転換させたい

大橋開通を記念するイベントには、国内外からおよそ一千万人に達する多くの観光客を迎えることが見込まれており、更に大橋開通を契機として、淡路島を拠点とした人と人の大交流時代の到来が予想されております。

こうした、多くの外来客に対して、淡路が自身を持って提供できるものといえば、まず豊かな農水産業を通じての新鮮な食材があげられますが、一度腰を据えて、この淡路の文化遺産など、島の懐部分への接触が求められるとき、何においても、まず挙げられるのは、私たち祖先の人情豊かなところを宿している淡路人形芝居であり、これからのところ豊かな淡路づくりの原点もここにあるといっても、過言ではないでしょう。淡路に訪れた千載一遇のこの好機をとらえて、淡路人形の恒久的な発展のために力を注ぐことは、取りも直さず 21 世紀に飛躍する淡路島そのものの基礎固めを進めることに外ならないのであります。

3 サポートクラブ（後援会）の結成について

淡路人形協会の運営につきましては、既に財団設立当時より 1 市 10 町の自治体から多額のご支援をいただいておりますが、この助成金は全額後継者団体養成事業に充てており、淡路人形座の運営は公演収入で賄っているのが現状であります。

つきましては、上に述べたような淡路新時代の到来に備えるため、また淡路人形芝居の運営を真に足腰の強いものにするために、先の行政の支援とは別の形の民間有志の方々による御理解・御支援の結集としてのサポートクラブ（後援会）を結成し、総合的支援体制の確立を期待しているところであります。どうか以上のような私どもの念願するところを御理解いただき、あなた様の尊い御理解とお力が頂戴できますよう衷心よりお願い申し上げます。

平成 9 年 9 月 30 日

淡路人形芝居サポートクラブ（後援会）発起人会代表 森 紘 一